View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Wakayama University Academic Repository

報　告

探検倶楽部
～和歌山県加太・友ヶ島～

Exploration Club
～ Wakayama Prefecture Kada Tomoga-shima ～

岡本 幸大[1]，井上 真求[2]，林 美由貴[3]，秋山 演亮[3]
[1] 和歌山大学経済学部，[2] 和歌山大学大学院教育学研究科，[3] 和歌山大学宇宙教育研究所

課題解決力を培うプロジェクトマネジメント教育の一環として，2013年3月9日，和歌山県和歌山市加太の友ヶ島にて，小学校4年生から中学生を対象とした野外活動「探検倶楽部」を実施した。独自の教育手法として，大学生が年少者を指導し，また年少者が年長者を見て学ぶ「斜め視点教育」を導入した。活動結果についての報告をする。

キーワード：探検倶楽部，友ヶ島，課題解決力，ほんまもん教育，無人島体験

1．背景

課題解決力を培うプロジェクトマネジメント教育の一環として，宇宙教育研究所では「ほんまもん教育プロジェクト」を企画・実施している。本プロジェクトでは独自の教育手法として，大学生が年少者を指導し，また年少者が年長者を見て学ぶ「斜め視点教育」を導入している。「教え」「教えられる」事により，大学生自身も責任感と自らの学び直しを行い，年少者も将来のロールモデルとして大学生から学びつつ，成長することが期待されている。

2．実施内容

「探検倶楽部」は「斜め視点教育」を行なうために，大学生指導者の育成（2-1節）と，受講者への指導実施（2-2節）の2段階で構成されている。

図1　リーダーシップの講義

2.1 大学生指導者講座

大学生指導者の育成は，2012年10月から2013年3月までに実施した。参加大学生は6名で，教育学部2名，経済学部1名，システム工学部3名であった。

指導者育成は2段階あり，大学でのスキル習得・指導教材開発・友ヶ島現地での訓練である。

スキル習得講座は和歌山大学にて2月17日から3月8日まで行われた。リーダーシップの講義（図1）を受け，年少者に接する際のリーダーシップなどについて議論した。野外活動として，釣りや火おこしの体験（図2）を行った。

以上の講座の後，実際に体験したことで感じた注意

点や小中学生に教えるときの接し方などの意見を出しあった。

図2　釣りの実習

図3　友ヶ島と加太の渡し船

図4　友ヶ島の地図

2012年12月2日，友ヶ島にて指導者による下見及び訓練を行なった（図3，4）。友ヶ島を1周し，キャンプ地の候補を選んだり，危険な場所や注意する場所を調査したりしながら進んだ。

指導教材[1)]

以上の指導者講座を経て，指導教材「探検手帳」を作成した。「探検手帳」とは，「探検倶楽部」の受講生が，野外活動をする際のテントの張り方や火のおこし方など，生活に必要な知識，危険な動植物や危険の回避など安全管理に関する知識，3月に釣れる魚や友ヶ島に生えている植物について書いてある。作成するにあたり大学生指導者に事前講座での体験を下に議論をし，教材素材を収集した[1)]。また，自分で考えて行動することや団体行動の心構えを書いてある（図6～11）。

また，自然への対処の仕方が書いてある。

・危険な生き物

野外活動では，長袖や長ズボンなど肌を露出させない服装をし，生き物にあったら近づかず，逃げる事で予防が出来る。

・魚図鑑

3月に釣れる魚介類や危険な魚介類について

・植物図鑑

友ヶ島に生えている植物の特徴について

・豆知識

自然から天気を知る方法や飲み水の作り方，寒暖による服装の調節などについて

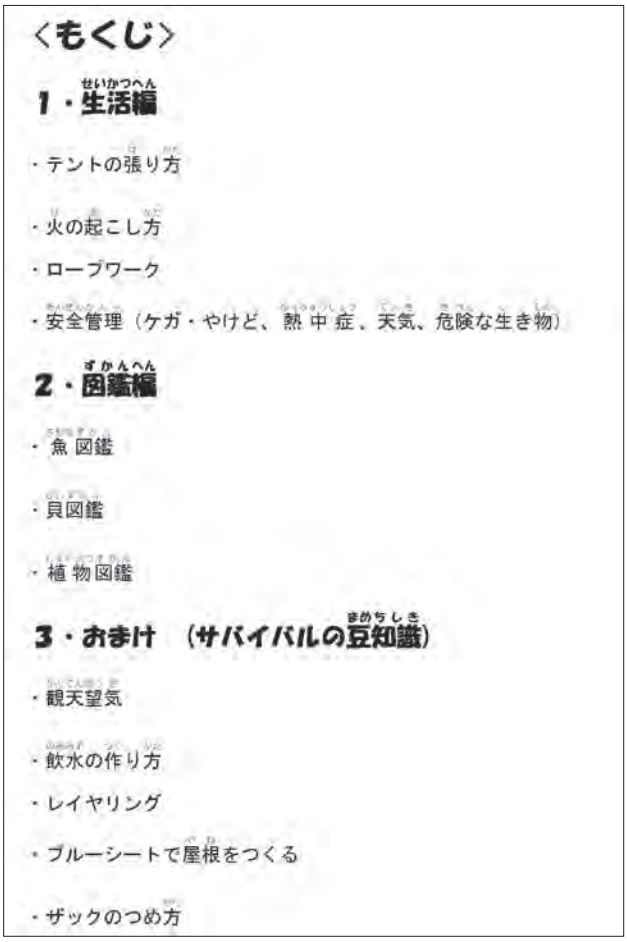
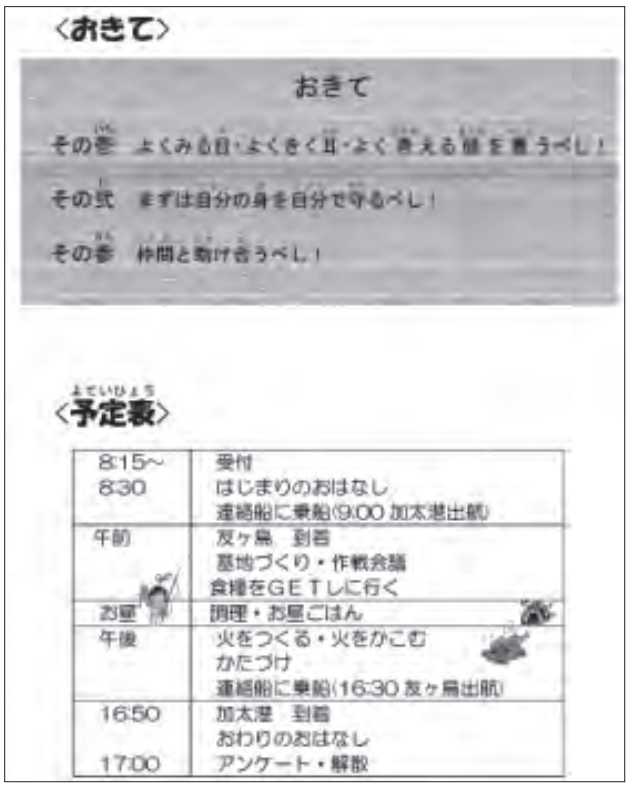


図5　探検手帳目次



〈おきて〉

おきて

その壱　よくみる目・よくきく耳・よく考える頭を養うべし！

その弐　まずは自分の身を自分で守るべし！

その参　仲間と助け合うべし！

〈予定表〉

8:15～ 8:30	受付 はじまりのおはなし 連絡船に乗船(9:00 加太港出航)
午前	友ヶ島　到着 基地づくり・作戦会議 食糧をＧＥＴしに行く
お昼	調理・お昼ごはん
午後	火をつくる・火をかこむ かたづけ 連絡船に乗船(16:30 友ヶ島出航)
16:50 17:00	加太港　到着 おわりのおはなし アンケート・解散

図6　探検手帳　おきて

1・生活編

テントの張り方

〈各部の名前〉

1）テントを張る前に

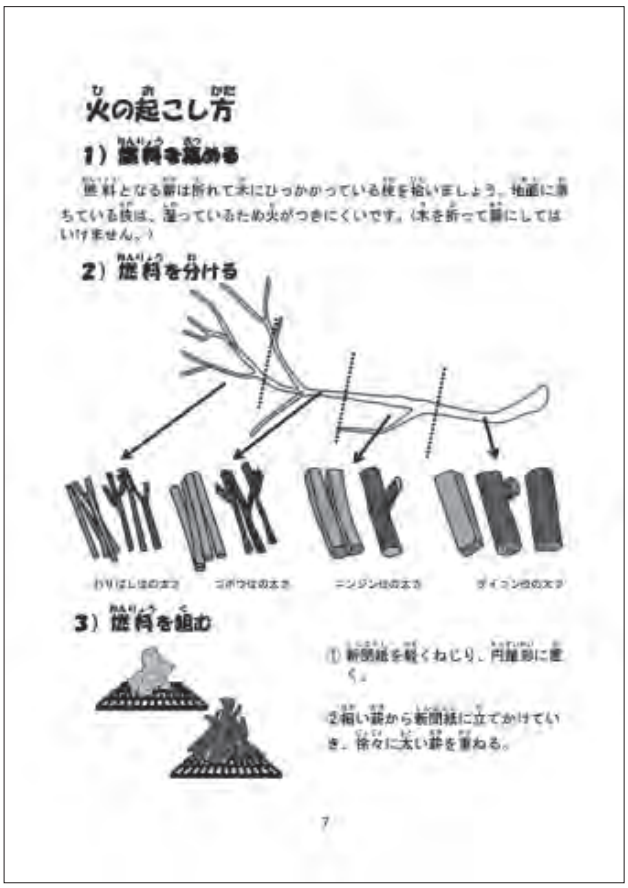
テントの部品を袋から出し、数をかぞえておきましょう。テントをたたむときに数合わせをすると、忘れ物の防止になります。とくにペグの抜き忘れに注意しましょう。

2）場所をえらび、整える

乾いていて、なるべく平らな所を探して、地面を整えましょう。強い風の吹くところ、ガケの下、川の中州や河原、木の下は危険なのでさけましょう。

5

図7　探検手帳　テントの張り方



火の起こし方

1）燃料を集める

燃料となる薪は折れて木にひっかかっている枝を拾いましょう。地面に落ちている枝は、湿っているため火がつきにくいです。（木を折って薪にしてはいけません。）

2）燃料を分ける

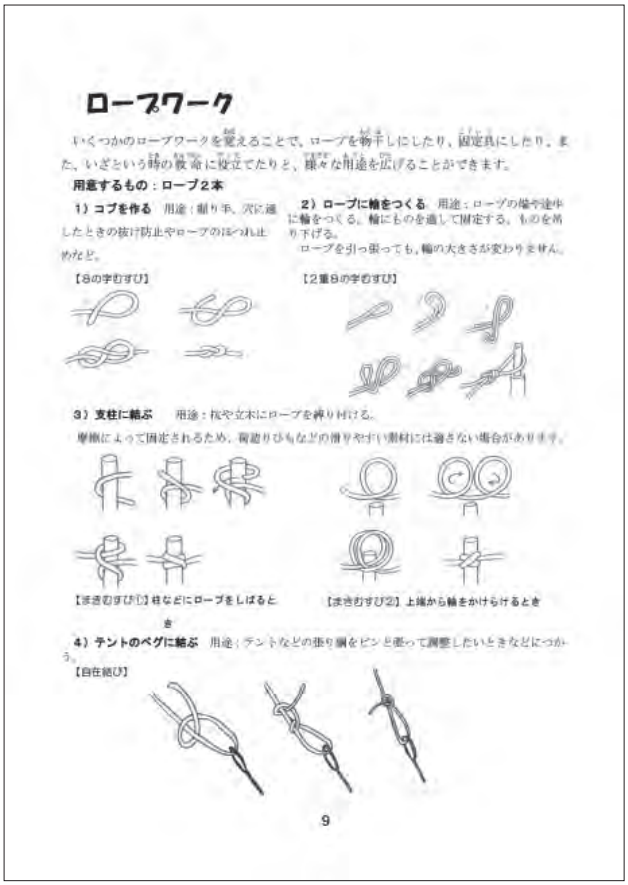
3）燃料を組む

①新聞紙を軽くねじり、円錐形に巻く。

②細い薪から新聞紙に立てかけていき、徐々に太い薪を重ねる。

7

図8　探検手帳　火のおこし方



ロープワーク

いくつかのロープワークを覚えることで、ロープを物干しにしたり、固定具にしたり、また、いざという時の救命に役立てたりと、様々な用途を広げることができます。

用意するもの：ロープ2本

1）コブを作る　用途：滑り手、穴に通したときの抜け防止やロープのほつれ止めなど。

2）ロープに輪をつくる　用途：ロープの端や途中に輪をつくる。輪にものを通して固定する。ものを吊り下げる。
ロープを引っ張っても、輪の大きさが変わりません。

【8の字むすび】

【2重8の字むすび】

3）支柱に結ぶ　用途：杭や立木にロープを縛り付ける。
摩擦によって固定されるため、荷造りひもなどの滑りやすい素材には適さない場合があります。

【巻きむすび①】杭などにロープをしばるとき

【巻きむすび②】上端から輪をかけられるとき

4）テントのペグに結ぶ　用途：テントなどの張り綱をピンと張って調整したいときなどにつかう。

【自在結び】

9

図9　探検手帳　ロープワーク

あんぜんかんり
安全管理（ケガ・やけど、熱中症、天気、危険な生き物）

1）切り傷、すり傷など
☆傷口の汚れや異物をきれいに洗う
（飲める程度の水道水で可）

☆目のケガは、異物を洗い流したあと両目を閉じる。
（患者は両目を閉じることで、眼球を動かさないようにする）

3）熱中症の予防と対処
まずは、予防を！！
1．のどが渇いたと感じる前に、こまめな水分補給（常温で可）
2．水分とともに塩分も補給
3．帽子やテントなどで日陰をつくる、地面からの照り返しも注意
4．慣っていても熱中症になる（高湿度・強い風・温かい風などで）
5．発汗以外にも脱水の原因はある（下痢やおう吐・出血）

2）やけどの応急処置
1．1秒でも早く水で冷やす。最低15分間は冷やし続ける。
（水道水の常温で可、氷やタオルは表皮を損傷させることがあるので不適）
2．水泡はつぶさない。衣服を脱がさず服の上から水で冷やす。
（衣服を脱ぐ際に表皮がはがれる危険がある）

4）虫さされの対処
アレルギー無し・・・毒針除去（場合により毒吸引）→抗ヒスタミン軟膏塗布（必要に応じて冷却）
重度のアレルギー反応…毒針除去（場合により毒吸引）→転倒防止・気道確保等の対処→（あればエピペン使用）→病院へ

10

図10　探検手帳　安全管理

2.2 友ヶ島探検倶楽部

2013年3月9日に友ヶ島で「探検倶楽部」を実施した。参加者は指導教職員2名，社会人指導者1名，大学生指導者4名，小中学生受講者10名であった。

そこで，1グループを大学生指導者2名と小中学生受講者5名をとして，2グループで活動した。社会人指導者1名と指導教職員2名は大学生の支援と安全管理を行った。

小中学生受講者は応募者多数のため抽選を行ない，10名が参加した。参加者は中学2年生の2名，中学1年生の１名，小学6年生の2名，小学5年生の2名，小学4年生の3名であった。

当日の活動風景を以下に示す。

・出発前のオリエンテーション（図11）

乗船前に顔合わせを兼ねて3回勝った順に並ぶオリエンテーションをした。その後，自己紹介をしてお互いを知ることに努めた。

・テントを張る（図12）

・探索と釣りの2班に分かれて行動

釣り班は船着き場まで行った。釣り餌を刺して釣りを行った。しかし，視認できる位置に魚の姿を確認することができず，魚が釣れなかった。これは事前下見（2-1節）の時に比べ，海水温度が低く魚の住処が深いところに移ったためであると考えられる。

釣りを経験したことが無い参加者がほとんどであったが，釣り針とテグスを結び，釣り餌を釣り針につけるまで探検手帳を参考にしながらしていた（図13）。一方探索は海辺の生物の調査をした（図14，15）。

・火おこし

探検手帳に書かれている火おこしの手順に従って火をおこした。火打石や舞切り式など根気が必要な方法で火おこしの体験をした。指導者陣は火がおこったが，受講生は火をおこすことができなかった。おそらく，勢いが足りない，火種に火が移るまで続けることができない，などの体力的な要因があったと考えられる（図16，17）。

・食事と散策

簡易のかまどを使って，味噌汁などを調理し，持参したおにぎりと併せて食事をした（図18）。

食事の後にキャンプ地の周辺を探索したり，遊んだりした。

・帰路

以上の活動を終え，加太港に帰着した。解散を前にして，アンケート（図20）及び集合写真撮影を行った（図19）。

図11　出発前のオリエンテーション（加太港）

図12　テントの設営

図13　釣りの準備

図14　探索

図15　海辺の生物の調査

図16　食事の準備

図17　火おこしの準備

図18　昼食風景

図19　集合写真（加太港）

1.なぜ参加したいと思いましたか？（複数回答可）			
①冒険や探検が楽しそうだから	8	②キャンプが好きだから	4
③釣りや焚火がおもしろそうだから	5	④友だちが参加するから	0
⑤親や先生に進められたから	1	⑥その他（　　）	0
2.今日のプログラムはどうでしたか？その理由も教えてください			
①とてもよかった	8	②よかった	2
③つまらなかった	0	④どちらでもない	0
【理由】 なかなかできないことができた。 ふだんできない火のつけ方や釣りを教えてくれたのでとても良かった。 普段とは異なる中でいろいろなことを知れたから。 マッチもないのに火をつけたり色々なことを知ったから。 いろんなことができた。 自分たちでとって食べることが楽しかった。 新しい友達ができてとても良い経験をした。 サバイバルになっていない。ほぼ先生たちがやっていたのが少し残念だった。			
3.今日、一番おもしろかったこと　と　一番いやだったことをおしえてください			
一番おもしろかったこと 食材ゲット、釣り、貝探し、火のつけかた			
一番いやだったこと 歩くこと、ぬれたこと、貝を探しに行くとき、火打石が成功しなかったこと			
4.探検倶楽部に、これからも参加したいですか？			
①また参加したい	10	②参加したくない	0
③わからない	0		
5.次に探検倶楽部に参加するとしたら、どんなことがやりたいですか？			
塩をつくる、　みんなで秘密基地をつくりたい、 海に入ってモリを突きたい、釣りをやりたい、底引き網漁、昆虫採集、動物を狩りたい、 なるべく自分たちでいろいろ考えたい			

図20　小中学生受講者へのアンケート結果

3. まとめ

課題解決力を培う野外実習「友ヶ島探検倶楽部」を実施した。受講者は協力して行動することにより初対面の子とも仲良くなった。アンケート結果では，受講生10名全員が満足しており，日常では体験できないことを経験したことに楽しみを見出したようである。

大学生指導者は，受講者が想像しやすい説明や受講者のやる気の持たせ方などを学んだ。他方，受講者によるアンケート結果から，指導者による指導が行き過ぎており，受講者の自主性・主体性が十分に引き出さ

れていなかったことが読み取れる。

一方で，指導者陣が事前に火おこしや魚釣りの訓練をしていたにも拘らず，受講者の体力や実施時期により火おこしや釣りで狙った成果が出なかった。原因として，時間に余裕のあるスケジュールとなっていなかったこと，事前の下見や大学生の訓練が不十分であったことなどがいえる。そのため，大学生指導者側に小中学生の行動を見守るゆとりや技量が足りておらず，管理主義となってしまったことが指摘できる。

指導者であり受講者でもある大学生,社会人指導者,指導教職員の4者の教育の構造がある今回のような教育プロジェクトでは，それぞれの学びの目的の設定やその成果を検証していくことが「斜め視点の教育」を考える上で重要となってくるであろう。

今後は，大学生が習得すべきカリキュラムの体系化や，活動内容に適したフィールドの選定と実施時期の検討が必要である。

引用・参考文献

1) 日本キャンプ協会ダウンロードセンター 「2. キャンプの安全」および「4. キャンプのノウハウ」,
http://www.camping.or.jp/download/（2014.02.24閲覧）

謝辞

友ヶ島探検倶楽部の実施にあたり，加太観光協会様に協力して頂き，心より感謝します。